

研修のねらい

平成から令和の時代の中で、私たちは、阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験を糧に多くの事を学びました。最近では、熊本県や能登地方での地震をはじめ関東・東北地方や西日本豪雨による大規模な自然災害に見舞われ、近い将来起こるとされている南海トラフによる大地震にも備える必要があると言われていています。

今年度、リハビリテーション部会では、「災害とリハビリテーション」をテーマに取り上げ、特別講演及びシンポジウムによる研修会を実施する運びとなりました。

午前の部では特別講演「災害時におけるリハビリテーション支援」～JRAT 活動の紹介～と題して、長崎リハビリテーション病院理事長（日本災害リハビリテーション支援協会代表）の栗原正紀先生にご講演いただきます。午後の部では、シンポジウム「災害とリハビリテーション」と題して、災害発生時に様々な医療とリハビリテーション支援の第一線でご活躍中の4人の先生方にご登壇いただき、ご発表いただきます。湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科の下田栄次先生より、災害リハビリテーションの包括的アプローチについて、熊本託麻台リハビリテーション病院リハビリテーション部在宅科訪問リハ室の山本恵仙先生より、言語聴覚士の立場から災害時のリハビリテーション支援について、それぞれ実践活動のご発表をいただきます。また、富山県厚生部医務課の小倉憲一先生より、医療行政の立場も含め保健医療福祉調整とDHEATの役割について、東京都立病院機構法人本部の中島康先生より、危機管理の立場から災害対応時と医療継続についてご発表いただきます。

超高齢化社会となる我が国において多発する災害時に起こる被災者・要配慮者等の生活不活発および災害関連死を防ぐために、リハビリテーション医療の視点から各種リハビリ専門職が組織的かつ横断・縦断的にリハビリテーション支援を展開し、災害医療に協業する必要があると考えられます。災害は、“忘れた頃にやってくる禍”ではなく、“忘れる間もなくやってくる大禍”であることを肝に銘じておく必要があります。

研修会の最後には意見交換会を設けており、一人でも多くのリハビリテーション専門職の方々にご参加いただき、会場からのご意見・ご質問など活発な議論を期待するとともに実りあるリハビリテーション部会研修会にしたいと考えています。